

佐藤さん(弘^大学院)UHA味覚糖のグミパッケージに作品採用

王林の「優しさ」表現

にじみ絵で地域性生きる

UHA味覚糖(大阪市)の「ご当地PREMIUM 青森グミ香る王林」のパッケージデザインに、弘前大学大学院地域共創科学研究科2年佐藤多恵さん(28)の作品が採用された。ねぶた絵でも使われる「にじみ絵」の技法を取り入れた地域性が生きたデザインで、王林の優しい色合いや香りの良さを表現した。佐藤さんは「王林の優しいイメージは、青森県、青森の人と重なるものがある。商品を通して、そんな青森の魅力が伝わってほしい」と笑顔を見せる。

弘前

ご当地PREMIUM ド・パッケージデザインは、



パッケージデザインが採用された佐藤さん

は、日本各地にある特産の果物をグミにしたブランド、産学官の連携で開発されている。

(西尾瑛)

その地域の学生から募るなど、産学官の連携で開発されている。本県の王林を使ったグミについては弘大にパッケージデザインの共同研究依頼があり、教育学部デザイン研究室佐藤光輝准教授が担当する教養教育科目「芸術デザイン入門」と、地域共創科学研究科の専門科目「プロダクトデザイン特論」の受講生、佐藤研究室の学生ら計35人が挑戦。この中から佐藤さんのデザインと「青森グミ香る王林」のネームが採用された。佐藤さんの出身地・北海道七飯町は「西洋リンゴ発祥の地」としても知られ、

リンゴ栽培が盛んな中で育った。王林の持つ香りなどの優しさを表現するに当たり、当初は水彩画のデザイン案だったが、にじみ絵を使ってみたらどうかとアドバイスを受け「じわじわ」とした優しさを表すことができた」という。また王林のぷつぷつとした表皮は、まるで表現した。担当した佐藤准教授も「縦に文字を入れる配置も動きがあつて目に留まりやすい。にじみ絵を使ったことで地域性、話題性もある」と評する。グミは10月9日から全国で販売が開始され、佐藤さんもコンビニで見つけた。

「自分でデザインしたものが販売されていることが不思議な感覚でうれしかった」と笑顔。弘大人文社会科学部卒でデザインを学んできたわけではないが、「各地にいる人の手に、自分が作ったものがストリートに届く感覚がすごく面白いと感じた」とプロダクトデザインの魅力を話した。

陸奥新報社提供

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。